

## 取組：小・中学校及び高等学校10年間の系統的な英語教育の指導体制の整備

## 当該地域の特性等を踏まえた課題分析の視点

広域分散型の本道においては、管内によって課題やその要因が異なる状況が見られることから、以下の2点を重点課題として共通理解を図り、各管内の実態を踏まえ、課題解決に向けた具体方策を講じる必要がある。

- 4技能5領域のバランスの取れた英語力の育成に向けた授業改善
- 学校種間の円滑な接続

- 「令和2年度英語教育実施状況調査（道独自調査）」を踏まえた現状
  - 求められる英語力を有する生徒の割合  
中学校：51.3%、高等学校：43.5%
  - 授業時間のうち、半分以上の時間、言語活動を行っている教員の割合  
中学校：85.6%、高等学校：81.3%
  - 学習到達目標の達成状況を把握している学校の割合  
中学校：77.5%、高等学校：75.0%
  - 校種間連携を図った学校到達目標等を設定している学校の割合  
中学校：22.1%

## Plan

## ■取組計画

- 「Hokkaido CAN-DOリスト」に基づく各校種における「CAN-DOリスト」の整備
- 英語力向上に向けた指導方法の工夫・改善等、小・中学校及び高等学校における系統的な英語教育の推進

## ■体制

- ・小・中学校 推進校：14管内（小27校、中15校）
- ・高等学校 推進校：4ブロック（4校）、協力校：12校

## Do

## ■小・中・高等学校英語教育支援事業

- 道教委**
- 小学校から高等学校まで領域別の学習到達目標「Hokkaido CAN-DOリスト」の策定
  - 全道の取組状況や成果・課題を共有するための全道協議会の実施
  - ・オンライン会議システムの活用

## （全校種校共通）

- 小・中学校、高等学校合同研修会の開催
- ・管内の実態に応じたオンライン型と集合型研修を実施（ハイブリット化）
- コンソーシアムの構築（4ブロック）
- ・教育局、推進校、推進校を所管する市町村教育委員会、有識者等により協議会の開催
- 地元PRによる地域活性化の取組

## 小中学校

- 中学校教員による乗り入れ授業の実施
- 全国学力・学習状況調査、英検IBAを活用した授業改善の推進

## 高等学校

- |  |    |  |
|--|----|--|
| 推進校  | 連携 | 協力校  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 公開授業の実施</li> <li>○ 英検IBAを活用した授業改善の推進</li> </ul> |    | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 中学校、高等学校合同研修会への参加</li> <li>○ 地元PRによる地域活性化の取組</li> </ul> |

## Check

## ■4技能5領域のバランスの取れた英語力の育成に向けた授業改善

- ・推進校の英語授業において、目的や場面・状況を設定した言語活動が位置付けられるとともに、学習到達目標に基づく学習指導や評価に結び付けることができた。

[授業時間のうち、半分以上の時間、言語活動を行っている教員の割合(R3)]

小学校：95.6%（推進校：90.8%）中学校：82.5%（推進校：95.9%）、高等学校：75.7%（推進校・協力校：71.8%）

[学習到達目標の達成状況を把握している学校の割合(R3)]

小学校：74.0%（推進校：70.4%）中学校：81.2%（推進校：86.7%）、高等学校：82.3%（推進校・協力校：100.0%）

## ■学校種間の円滑な接続

- ・小・中学校、高等学校合同研修会やコンソーシアムにおける公開授業や協議を通して、言語活動の充実と校種間の系統性を踏まえた学習到達目標の関連について理解を深めることができた。

[校種間連携を図った学校到達目標等を設定している学校の割合(R3)]

中学校：31.4%（推進校：93.3%）、高等学校：5.8%（推進校・協力校：43.8%）

## Action

## ■オンラインを活用した継続的な研修や取組事例を共有

- ・英語教育の一層の充実に向けて、継続的な研修機会を確保することができるよう、オンラインを効果的に活用し、日常的な実践について協議・交流を行ったり、実践や教材等を共有したりすることができる仕組み（「E-Netコミュニティ」）を構築する。

## 成果の普及

- 本事業内容を掲載した道教委のHP
  - ・Hokkaido CAN-DOリスト
  - ・推進校における実践事例
  - ・地元PR動画
  - ・パフォーマンステストハンドブック

